

## 愛知県高齢者移動支援モデル事業について

## 1 目的

北名古屋市は、愛知県より「高齢者移動支援モデル事業」を受諾し、令和 2 年度から令和 4 年度まで取り組んだ。

モデル地区を選定し、「虚弱な高齢者が自ら買い物をするための移動手段」として自宅から市内の指定スーパーまでの限定ルートに往復のタクシー利用を支援することにより、高齢者の自立支援と介護予防を目的とした。

## 2 方法（ちらし参照）

## (1) 対象地区

最寄りのバス停までの距離が 100 メートル以上で、市内スーパーからも 500 メートル圏外の地域を目安に選定した。加島新田地区、宇福寺地区、九之坪地区の一部(両ヶ前・石ノ戸、菰口、梅田、天神、神明、東ノ川)

## (2) 目的地スーパーの選定

事前アンケートの結果より、利用の多かった市内スーパー 3 か所

## (3) 利用要件の決定

利用料1回(片道)300 円、利用者はタクシー会社に直接支払う

利用時間午後 1 時～3 時 30 分(予約:往路午後 1～2 時、復路午後 2～3 時)

利用人数 タクシー1 台につき 1～4 人まで利用可能

利用回数 週 1 回火曜日又は木曜日、事前予約制

## (4) 周知方法

自治会・民生委員への説明、自治会回覧、高齢者サロン等への PR、地域包括支援センター経由での PR、事前アンケートに参加希望があった人に勧奨

## (5) 対象者の選定と利用登録

要介護認定で要支援 1、2 もしくは厚生労働省の生活機能評価基本チェックリストで事業対象者相当と判定された方。いずれも職員の訪問調査を実施し、申請をいただき利用登録をする。(利用登録証と利用確認券を発行)

## (6) 事業者の選定及び契約

タクシー協会経由で、参加意向があった事業者 8 社と契約をした。

## 3 対象地区での事前アンケート（別紙グラフ参照）

① 買い物の移動手段は、自分で行く人が約 7 割と最も多く、同居家族 1～2 割、別居家族 3～5%、宅配サービス 3～6%、移動販売 0～3% の順に多かった。

② 買い物にバスを利用している人は殆どいなかった。

③ 買い物における移動ニーズとして、8 割の高齢者が自分で買い物をしたいと答えていた。

④ 希望する買い物支援の方法として、タクシーを気軽に利用したい高齢者は 1～2 割、バスを気軽に利用したい高齢者は 1～2 割、買い物ツアーで行きたい 2～5%、買い物仲間で行きたいが 3～6% であった。

#### 4 実証実施の結果

(1) 期 間 令和4年5月17日(火)～7月28日(木)

(2) 利用登録者 9人

すべてのタクシー事業者に、登録者を割付

	1往復	2往復	6往復	7往復	計
利用人数	4人	1人	1人	1人	7人
乗車回数	8回	4回	12回	14回	38回

(3) 契約事業者数

8事業者 うち稼働実績 6事業者

(4) 実施後の意見

(ア) 利用者(7人)

回覧を見て自ら利用したのは2人のみ、その他は包括等に声をかけられ利用した。運行時間帯、曜日は6人が良いとした。予約方法は良くなかったが3人、待ち合わせはうまくいったと全員が答えた。乗り合わせしたのは4人で友人や別居の家族であった。4人が利用料が高いと答えた。

(イ) 自治会及び民生委員

思ったより利用者が少なかったのは、独居高齢者でも家族が助けている場合も多いと思われる。買い物タクシーのようなものがあると嬉しい。交通と福祉がタッグを組んで考えてほしい。今は何とかこなせていても、将来は不安である。

(ウ) タクシー事業者

今回はスムーズに運行できたが、時間貸しでなく、距離制の場合同じサービスの提供は難しい。「事前登録制」だったので、配車が円滑だった。

(エ) 地域包括支援センター

対象者探しに苦勞した。予約に支援がいる場合もあった。日頃からタクシーを利用する人には有効であった。300円が高いという人もいて、価値観のずれを感じた。高齢者だけでなく、他の世代も必要とする人がいる。

#### 5 在宅医療連携協議会で取り上げられる地域課題についての考察

(1) アンケートで利用希望と答えても実際に利用した人はほとんどいなかった。移動ニーズを把握するときは、困り具合のレベルや地域の特徴を十分に把握してマッチングすることが必要である。

(2) 今回、モデル地区においては、移動を伴う買い物ニーズは少なかった。しかし、他の買い物手段も含めた情報提供については、今後も工夫が必要である。

(3) モデル地域では買い物の移動手段としてコミュニティバスがほとんど利用されていなかった。タクシー利用に対するハードルを感じている高齢者も多い。まずは高齢者の生活状況に合わせ、現在ある移動手段を有効に活用できるよう市民に伝えていく取組みが必要である。

(4) 今回は虚弱な高齢者が自ら買い物をするための移動支援として、タクシーによる移送に取り組んだが、高齢者の生活に関わる移動支援として、多角的な議論が必要であるため、今回の知見を含め、高齢者福祉の観点から市の公共交通の検討に参加していく。